

# 第3回情報共有基盤推進委員会 議事概要

## 1. 日時・場所

2015年2月26日(木) 15:00~17:00

経済産業省本館17階 第6共用会議室

## 2. 委員等

### 委員長

須藤 修 東京大学 大学院 情報学環・学際情報学府学環長・学府長

### 委員

武田 英明 共通語彙基盤ワーキンググループ 委員長  
国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授

橋田 浩一 一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)  
ビッグデータ工学専門委員会 委員長  
東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャル ICT 研究センター 教授

林 史典 文字情報基盤ワーキンググループ 委員長  
聖徳大学/聖徳大学短期大学部文学部文学科 教授  
人文学部長/人文学部日本文化学科長

伏見 諭 一般社団法人情報サービス産業協会 (JISA) 技術強化委員会 標準化部会長  
合同会社ソフデラ 代表

(委員 50 音順)

### オブザーバ

内閣官房 IT 総合戦略室  
内閣官房 社会保障改革担当室  
総務省 行政管理局

### 事務局

平本 健二 経済産業省 CIO 補佐官  
田代 秀一 独立行政法人情報処理推進機構 国際標準推進センター長  
小林 龍生 独立行政法人情報処理推進機構 国際標準推進センター 専門委員  
頃末 和義 独立行政法人情報処理推進機構 国際標準推進センター

### 3. 議事概要

#### 3.1. 共通語彙基盤 WG 報告、及び推進方針に係る審議

##### 3.1.1. 資料 1 に基づき、「共通語彙基盤の政府・自治体での推進状況」について説明。

- IT 戦略本部 各府省情報化統括責任者 (CIO) 連絡会議「電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたアクションプラン (参考資料 0)」で、文字と用語の標準化、共通化の取り組みについて記載された。今年度中に実施すべきコアな語彙の整備など順調に進み、内閣官房でも基盤づくりの成果が評価された。
- 各省庁や自治体でも、共通語彙を使った様々な事業の取り組みが開始され、今後の展開が注目されている。
- メタデータの標準化と連携については、米国と英国と連携して、情報共有が不可欠である。

##### 3.1.2. 資料 2 に基づき、共通語彙基盤整備事業の進捗状況を説明。

- 共通語彙基盤「IMI (Infrastructure for Multilayer Interoperability)」が、国際的にも少しずつ認知されてきた。
- 来年度本格構築を予定する共通語彙基盤に向けて、自治体での実験結果や専門家による検討を経て、概念モデルとして整理した結果を公開した。
- 多くの分野で共通的に使われる言葉をまとめたコア語彙について、パブコメを反映した正式版として、Ver. 2.2 を 2 月 3 日に公開した。
- 海外との連携を進めるべく、日・米・欧で国際コミュニティの設立が合意され、現在準備中である。
- 欧州委員会の主催する 5 月の国際会議で IMI の取り組みを紹介する。

##### 3.1.3. 資料 3 に基づき、構築中のツールについて説明。

- 横浜市金沢区の持つ既存のデータを IMI が定義する構造に整理すると共に、必要な項目を付加して CSV にするための支援ツールである。
- オープンデータだけでなく、情報連携等様々なシナリオで利用できることを目指す。
- 複数の自治体が汎用的に利用できる web アプリケーション型のツールを目指しており、IPA からオープンソースとして公開する。

##### 3.1.4. 資料 4 に基づき、コア語彙、IEP について説明と意見

- コア語彙 2.2 は「正式版」として安定した版とする。
- コア語彙を現場でどのように活用するかの例示として「住所」「建物」など 9 種の「IEP 情報交換パッケージ」を公開。
- 技術者向けの「コア語彙テクニカルガイドライン」を公開。

##### 3.1.5. 資料 5 に基づき、共通語彙基盤整備事業 2015 年度実施項目 (案) について説明。

- 各省庁で語彙の整理が始まっているが、これらを整理するために必要となるドメイン語彙についても、作成や検討を支援したい。
- データベースの構築については、語彙の情報を配信するだけでなく、欧州で構築されたシステムのように、関係者が意見を出し合いながら語彙を構築していくための環境の提供や、各所で作られたドメイン語彙の共有のための環境等も盛り込みたい。
- 普及促進のため、セミナーの実施や自治体等との連携強化を図る。

### 3.2. 文字情報基盤 WG 報告、及び推進方針に係る審議

3.2.1. 資料 1 の 2、3 ページに基づき、文字情報基盤の政府・自治体での進捗状況について説明。

3.2.2. 資料 6 に基づき、文字情報基盤整備事業の進捗状況と 2015 年度実施項目（案）について説明。

- 文字情報基盤 DB システムの本運用は来年度末予定。その前に半年間程度の試験運用を行う。
- 変体仮名の標準化を ISO へ提案する計画である。

3.2.3. 資料 7 に基づき縮退マップについて説明

- IPA の提供する縮退マップは、文字情報基盤の整理した文字約 6 万文字を、JIS 第 4 水準の約 1 万文字へ縮退的に対応させる際に参照する情報である。
- 一つの文字について、縮退対対応先候補が複数有る場合がある。また、候補が無く、読み仮名などへの変換を想定する場合もある。これらの場合、縮退先は現場で決める必要がある。
- 現在最終の編集作業を行っているところであり、3 月末には公開する予定である。その後一般から意見募集を行い、夏にそれを反映したバージョンを公開する。

## 4. まとめ

- 共通語彙基盤並びに文字情報基盤の次年度の実施項目について承認とする。
- 文字情報基盤の縮退マップは、その方向性について承認し、年度内の公開へ向け、詳細については文字情報基盤ワーキンググループ（2015 年 3 月 24 日開催予定）に一任する事とする。

## 5. 閉会

- 委員長より閉会の挨拶。次回は来年度末頃に開催予定。

以上